

Ns. 篠崎の

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



最近麻疹（はしか）の感染をよく耳にしますが、どのような病気なのでしょうか？（30歳・男性）



2016年8月、幕張メッセで海外アーティストの大規模コンサートが開かれ、そこに麻疹に感染した19歳の男性が参加しており、幕張メッセや関西国際空港の職員が次々に感染したというニュースが話題になりました。

近年、麻疹にかかった人を街中で見かけることが少なくなりました。しかし、麻疹は感染力の強い身近な感染症です。日本国内での発症者数は年々減少傾向ですが、未だに根絶には至っていない状況です。

感染力・発症率が高い麻疹合併症で死に至る場合も

麻疹は感染力が強く、空気感染や飛沫感染、接触感染などさまざまな経路で感染します。免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100パーセント発症

します。潜伏期間は2週間前後で、せき、鼻水、結膜炎（目やに・眼の充血）の症状が強く出て、38度以上の発熱が3〜4日続きます。その後、一時的に熱はやや下がりますが、発熱が現れるとともに、39度以上の熱が再度出てきて、数日間続きます。

麻疹ワクチンで発症を予防

麻疹は空気感染もするので、マスクや手洗いのみでは予防はできません。麻疹ワクチン接種が有効な予防法といえます。また、麻疹の患者さんに接触した場合、72時間以内に麻疹ワクチンを接種することも効果的であると考えられています。

海外旅行時には特に注意

かつては小児のうちに麻疹に感染し、自然に免疫を獲得するのが通常でした。しかし、麻疹ワクチンの接種率の上昇で自然に感染する人は少なくなってきました。麻疹ワクチンで免疫を獲得できるのは95パーセント程度と言われています。1回だけの接種では免疫を獲得できると

今回、幕張メッセで麻疹の感染源となった19歳の男性はバリ島で感染してきたようです。日本国内での感染にも注意する必要がありますが、海外旅行の計画があります。事前に渡航国に感染症の流行がないか確認し、必要なワクチンを接種してから旅行を楽しむことをお勧めします。



【アドバイザー】

篠崎 香さん・しのざきかおり・くらで病院看護部長。平成4年、北九州小倉看護専門学校を卒業後、県内病院の看護師や介護保険広域連合競手支部のケアマネージャーとして、看護・介護職の経験を積む。平成22年10月からくらで病院外来に勤務。平成28年4月より病棟部長。

日本では年々減少傾向にある病気ですが、感染力が強く、発熱、発疹、せき、鼻水、結膜炎などの症状を持ち、合併症によって死に至る危険性もあります。予防には、麻疹ワクチンの接種が有効です。